

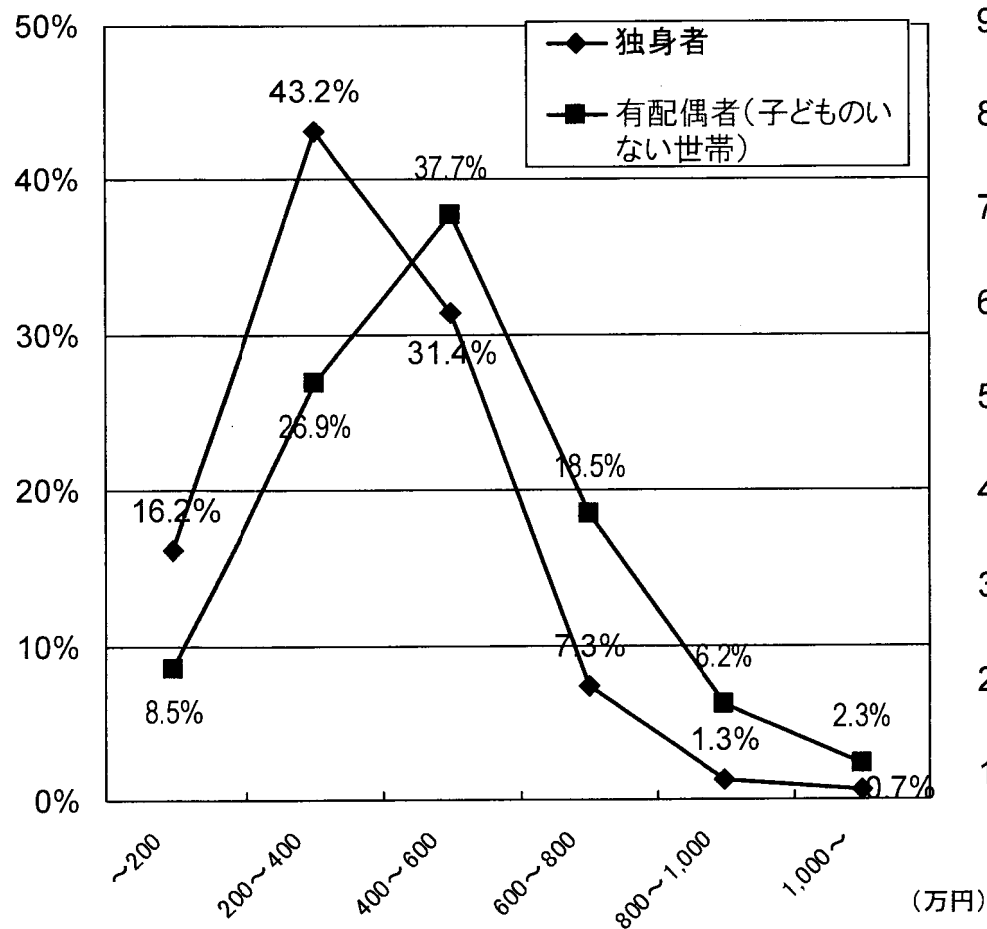
第1回社会保障審議会 人口構造の変化に関する特別部会	資料3-4
平成18年11月21日	

結婚や出生に影響を与えている要因に関する調査結果

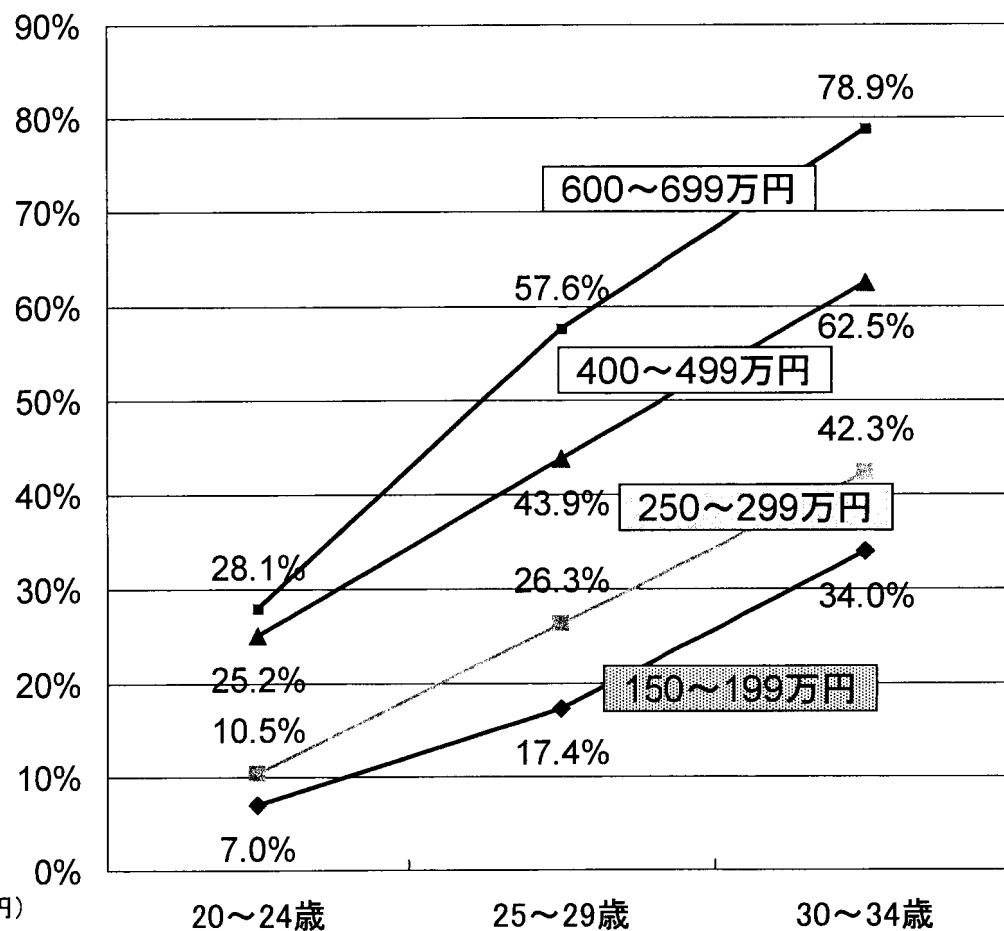
# 1 若年者の収入、就業形態

## ○収入と結婚

世帯形態別本人収入の分布(男性)



年収別配偶者のいる割合(男性)

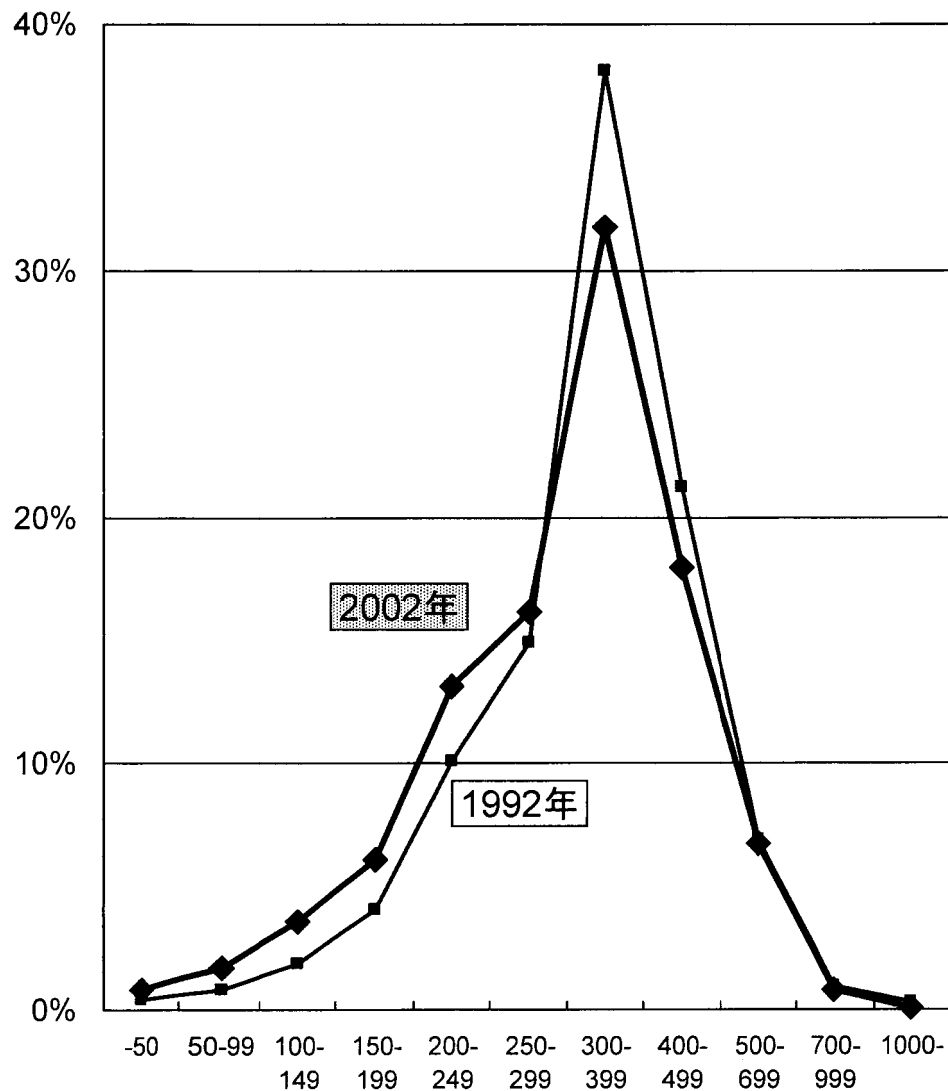


資料:内閣府「平成17年版 国民生活白書」(2005年)  
 (内閣府において日本家族社会学会全国家族調査研究会「家族についての全国調査」(1998)により特別集計)

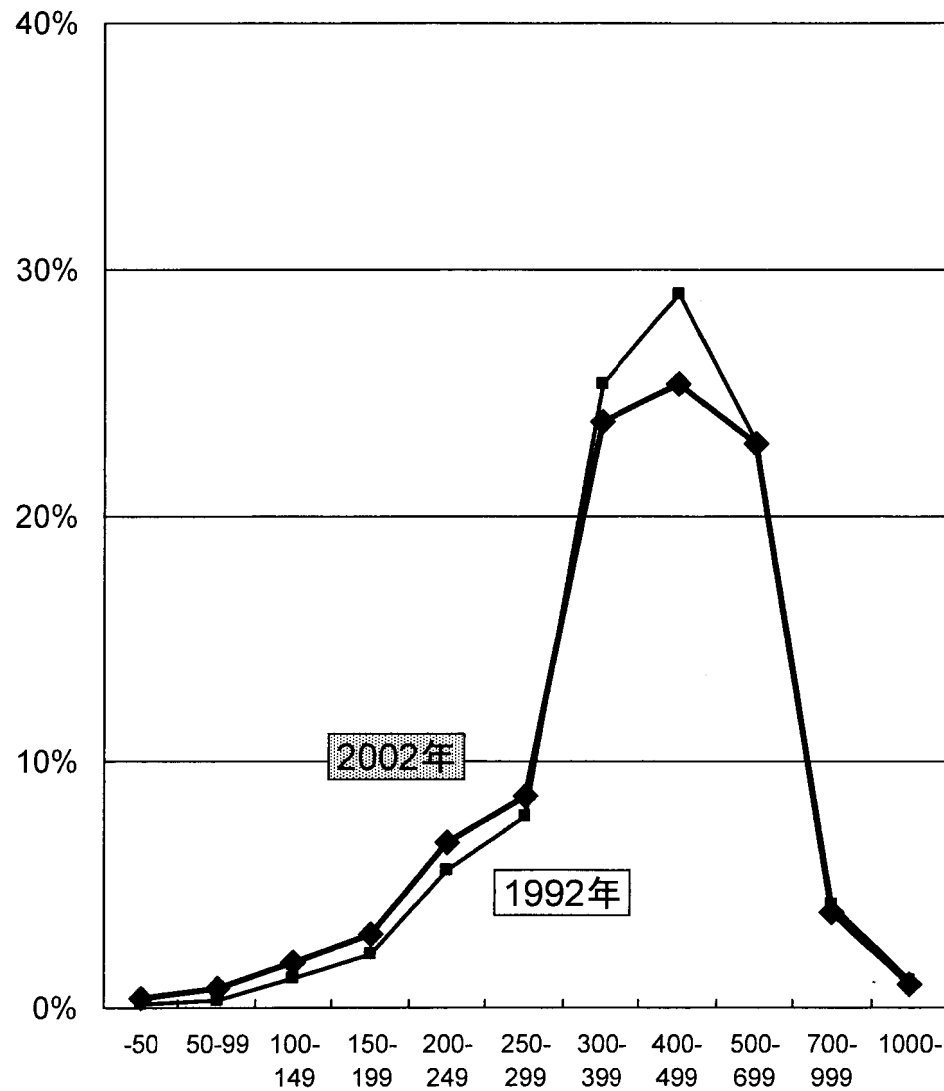
資料:労働政策研究・研修機構「若者就業支援の現状と課題」(2005年)  
 (就業構造基本調査(総務省)を特別集計したもの)

# ○若年者の所得分布の変化

## 男性25～29歳雇用者の所得分布



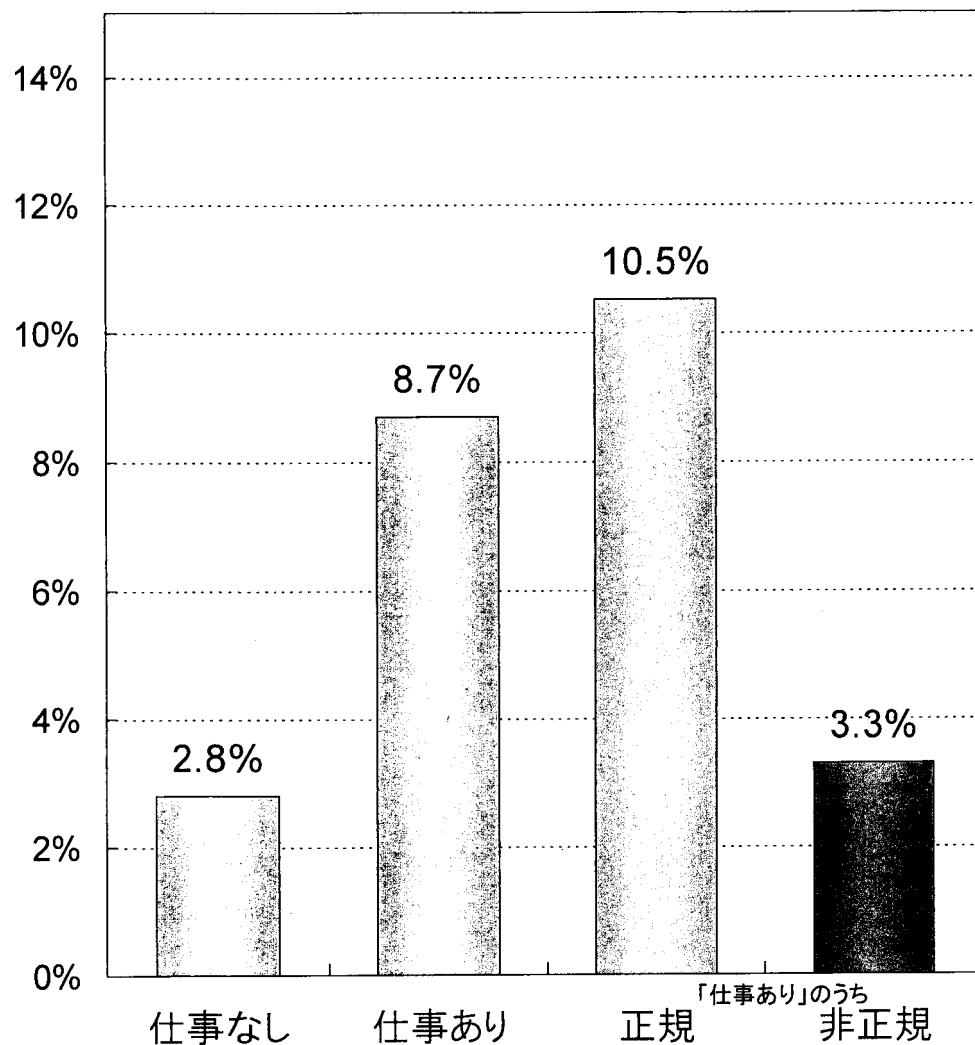
## 男性30～34歳雇用者の所得分布



資料：総務省「就業構造基本調査」(2002年)

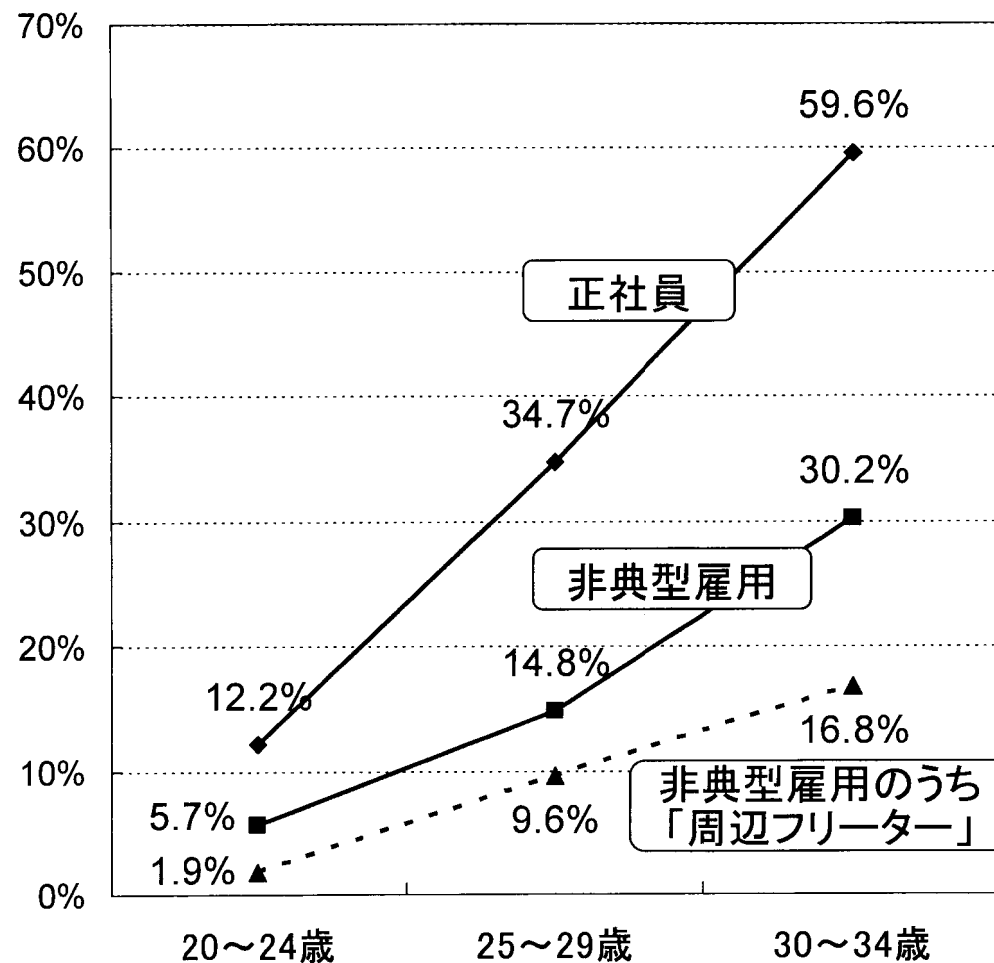
## ○就労形態と結婚

平成14年時点の男性独身者(20~34歳)のうち、その後2年間の間に結婚した割合



資料：厚生労働省「第3回21世紀成年者縦断調査」(平成16年)

男性の就労形態別配偶者のいる割合  
(平成14年)

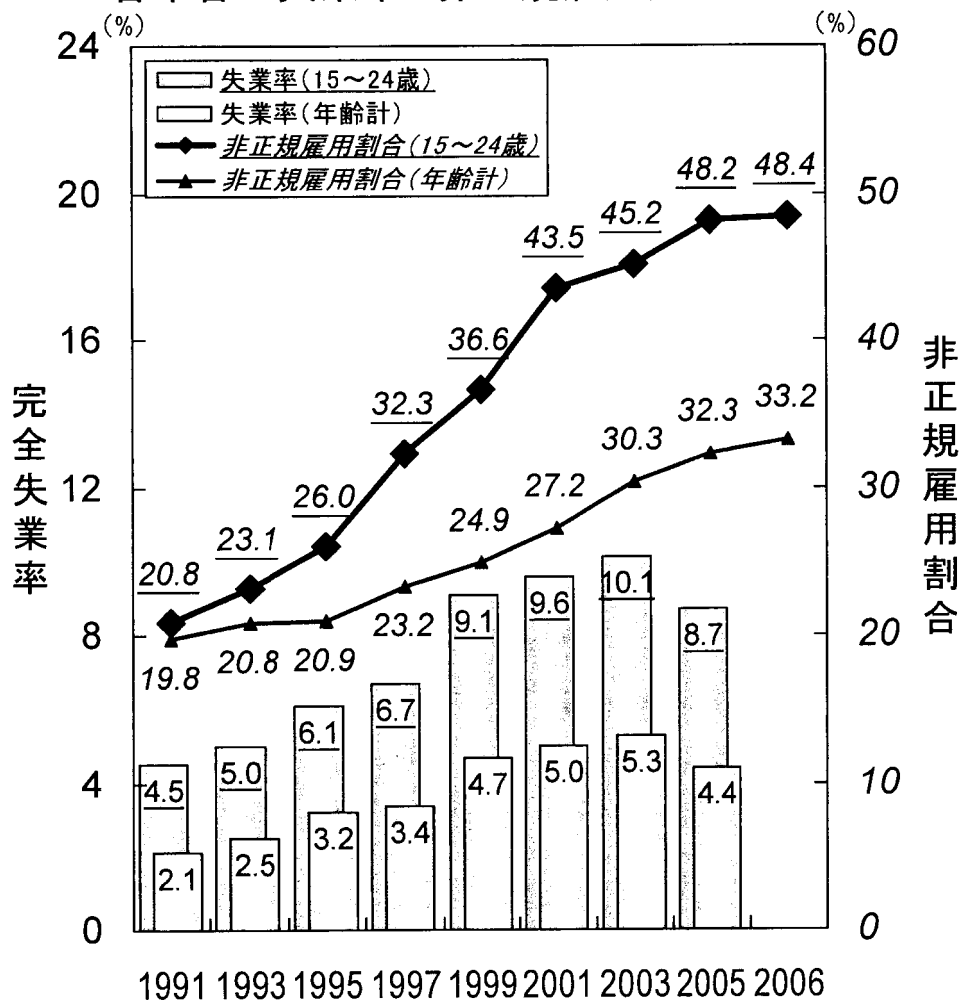


(注)「周辺フリーター」:「アルバイト」または「パート」のうち、学生でも主婦でもなく、かつ、年間就業日数が99日以下または週労働時間が21時間以下の者

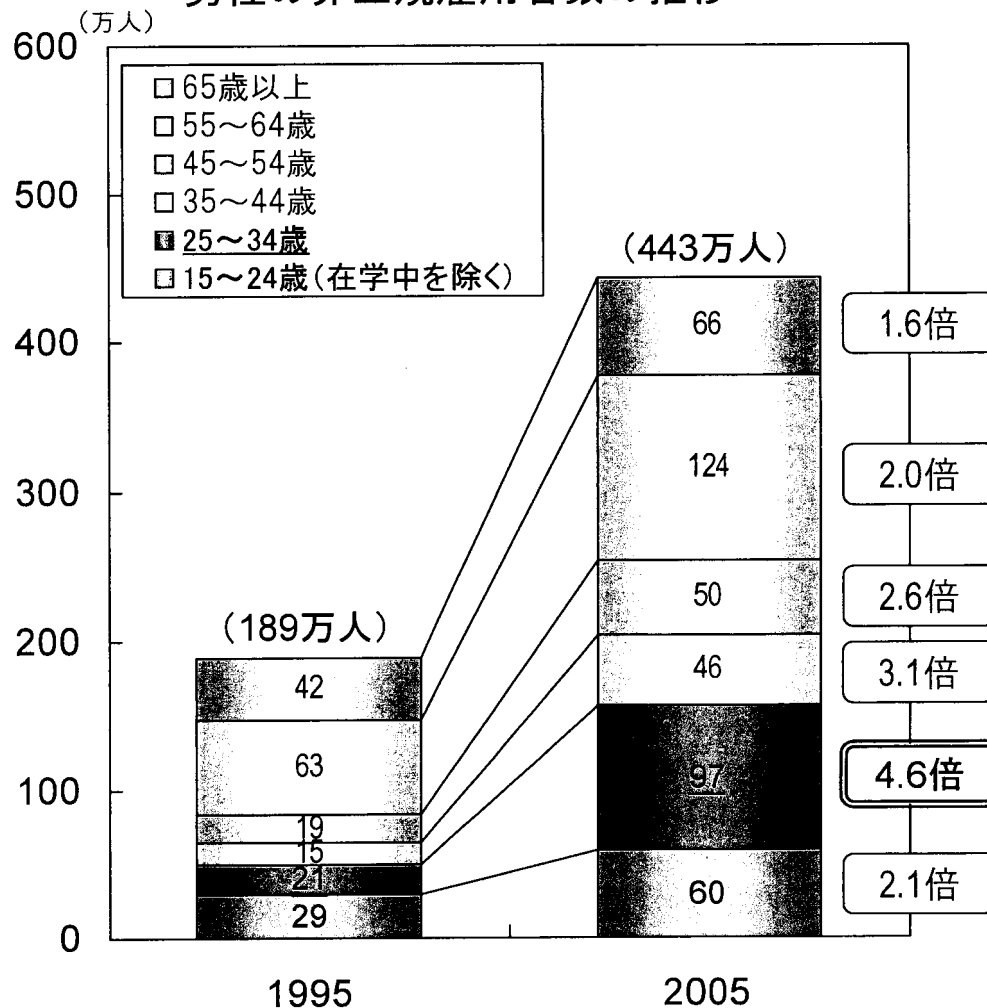
資料：労働政策研究・研修機構「若者就業支援の現状と課題」(平成17年)

# ○若年者における非正規雇用の増加

## 若年者の失業率と非正規雇用割合の推移



## 男性の非正規雇用者数の推移



資料：総務省統計局「労働力調査」、「労働力調査特別調査」、「労働力調査詳細結果」

(注) 1. 失業率については、各年の平均。

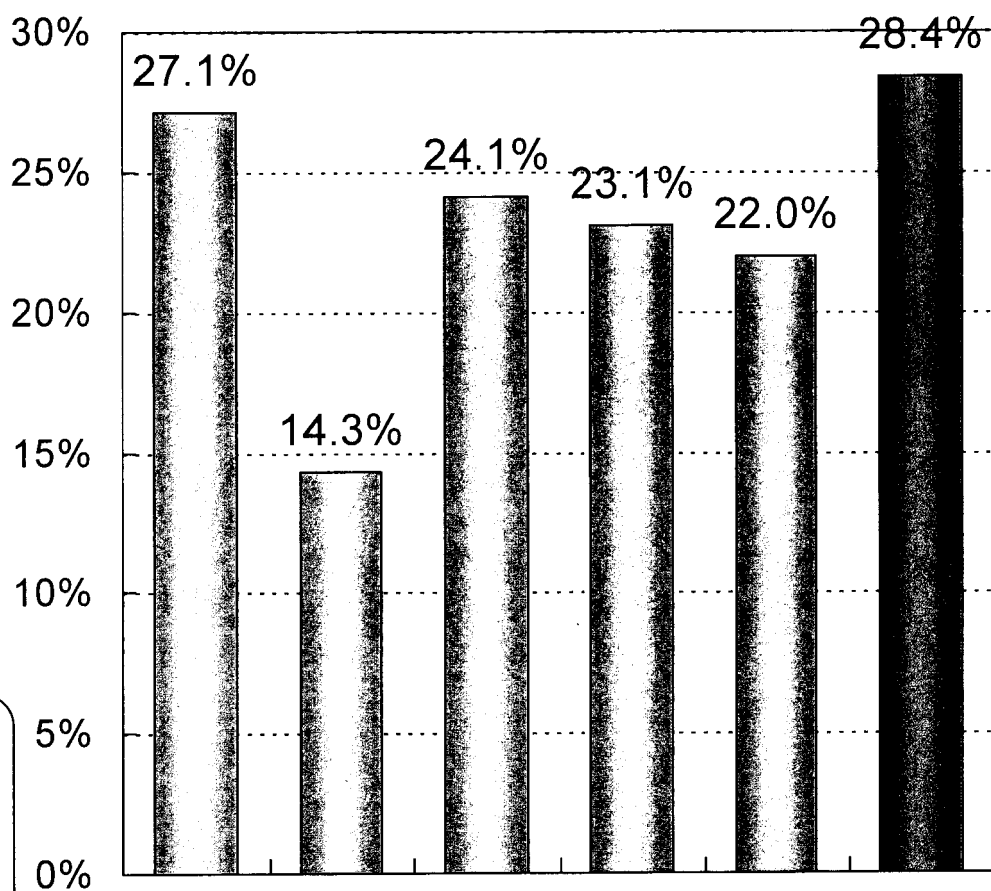
2. 非正規雇用割合、非正規雇用者数については、平成13年までは「労働力調査特別調査」(2月調査)、平成14年以降は「労働力調査詳細結果」による。調査月(平成13年までは各年2月、平成14年以降は1~3月平均の値)が異なることなどから、時系列比較には注意を要する。

## 2 勤労者(特に男性)の仕事と生活のバランス

### ○夫の仕事時間、家事・育児時間の増減と出生

【夫婦ともに子どもをほしいと考えており、第1回調査(平成14年11月実施)から第2回調査(平成15年11月実施)の間に子どもが生まれていない夫婦のうち、この1年間で子どもの生まれた割合】

仕事時間の増減と出生との関係

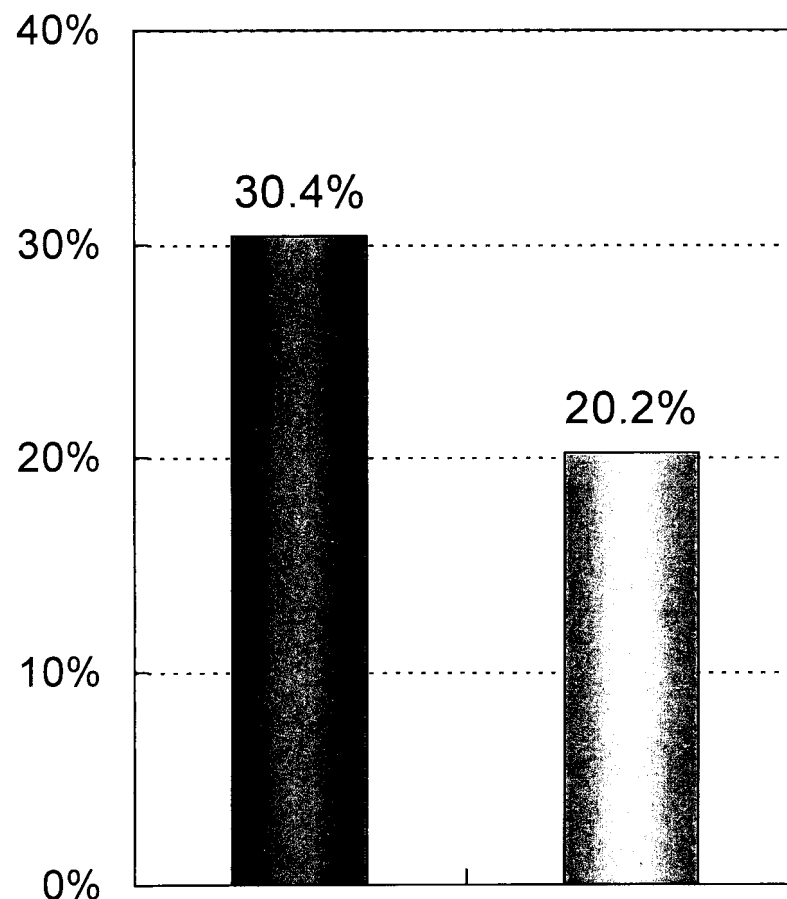


第1回調査から第2回調査にかけての夫の1日の仕事時間(通勤時間を含む)の増減

第1回調査の夫の1日の仕事時間(通勤時間を含む)

増加 減少 増加 減少 増加 減少  
 8時間未満 8~10時間未満 10時間以上

家事・育児時間の増減と出生



第1回調査から第2回調査にかけての夫の休日の家事・育児時間の増減

増加 減少

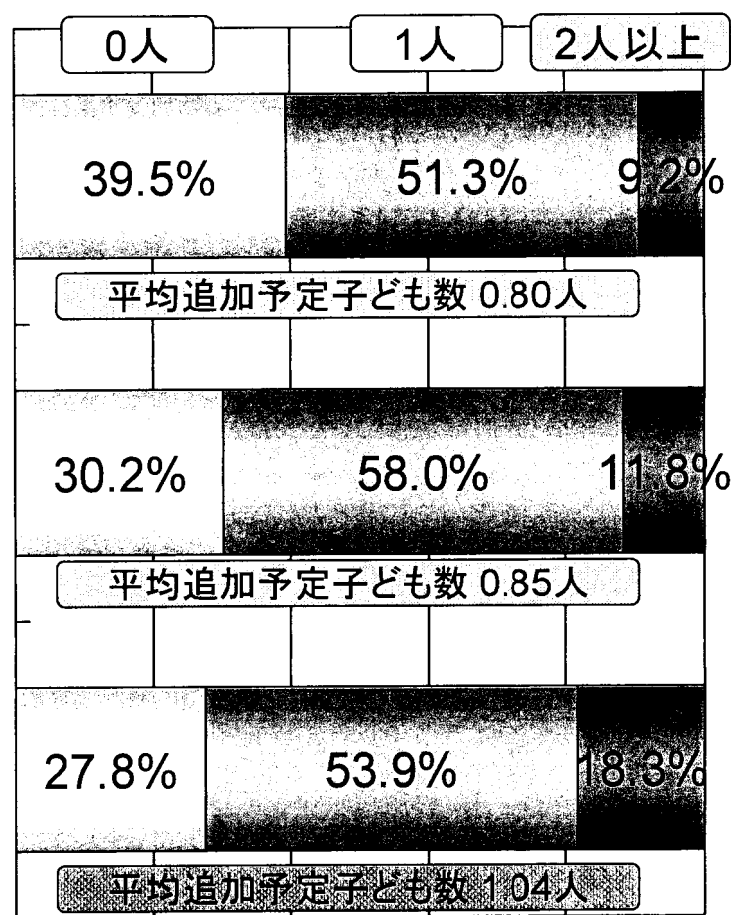
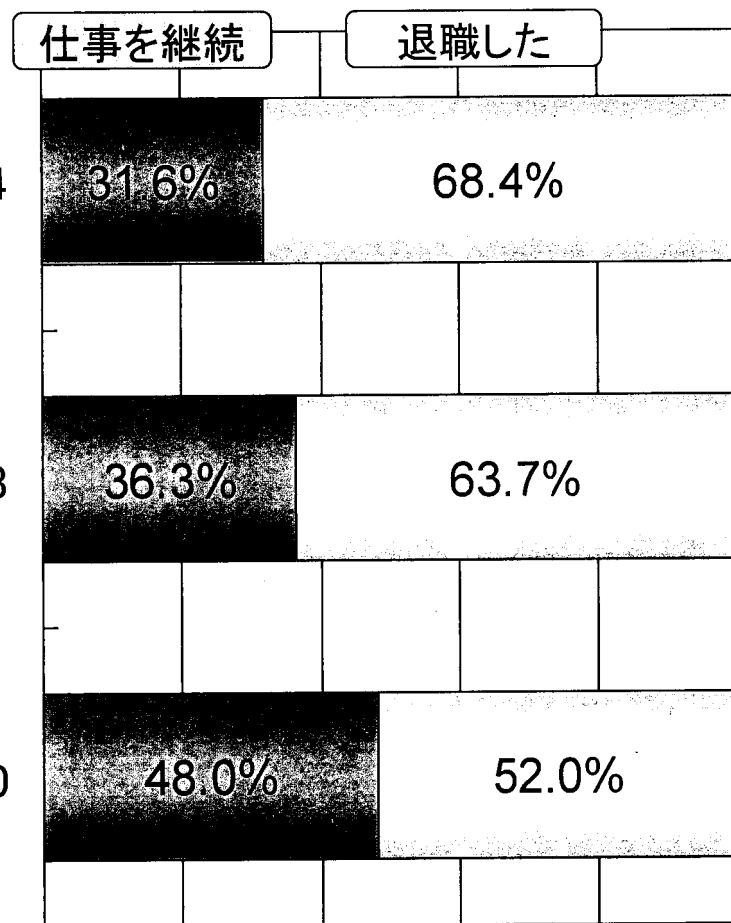
# ○男性の育児参加度と配偶者の就労継続、子ども

第一子出産時の妻の就業継続率

現在子ども一人の夫婦の追加予定子ども数

0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

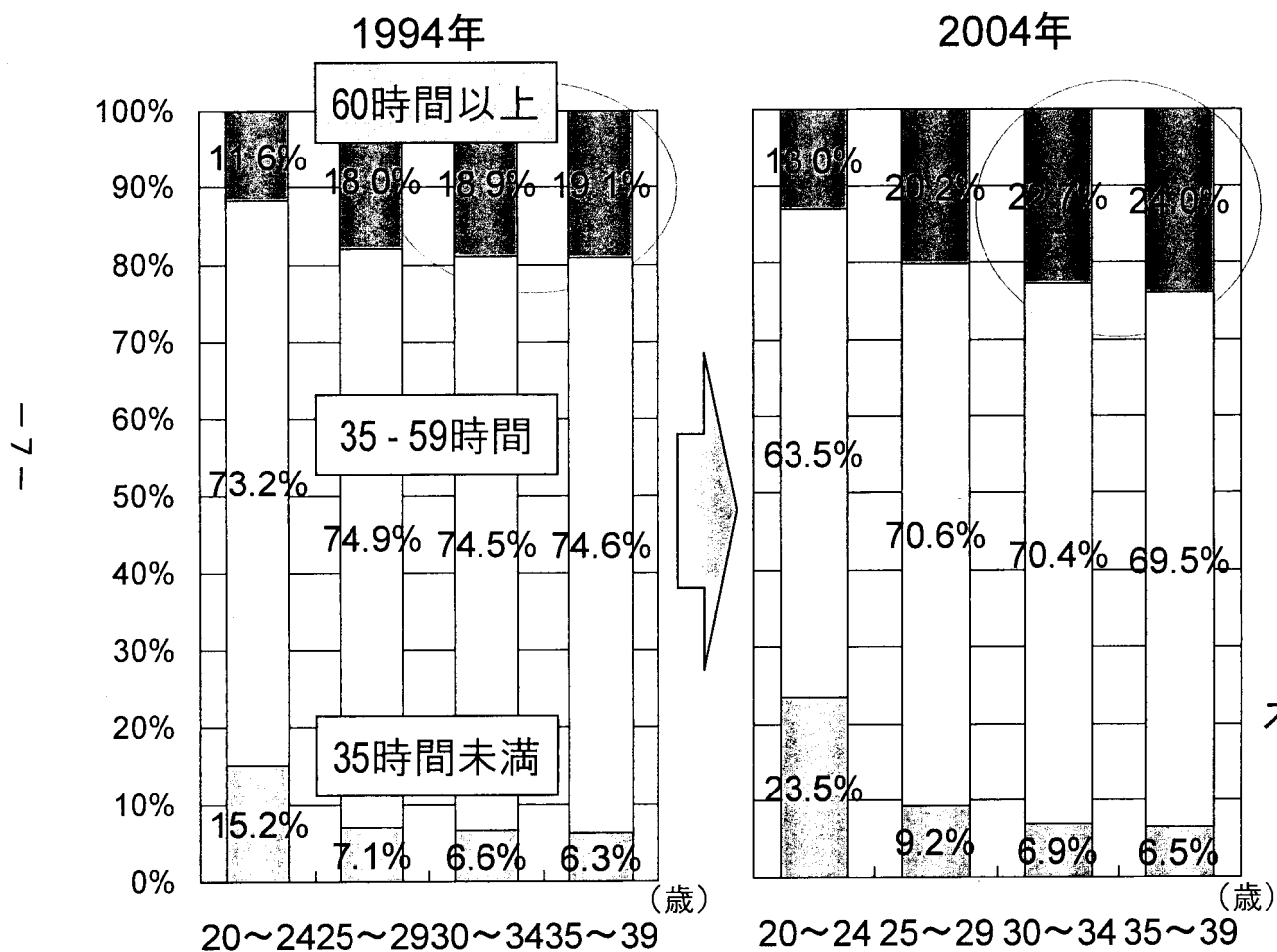


(注)「夫の育児得点」は、「遊び相手をする」、「風呂に入れる」、「食事をさせる」、「寝かしつける」、「おむつを替える」の領域別に、「月1～2回」(1点)、「週1～2回」(2点)、「週3～4回」(3点)、「毎日・毎回」(4点)、「やらない」(0点)とし、5領域の得点を合算したもの

資料：社会保障・人口問題研究所「第3回全国家庭動向調査」(平成15年)

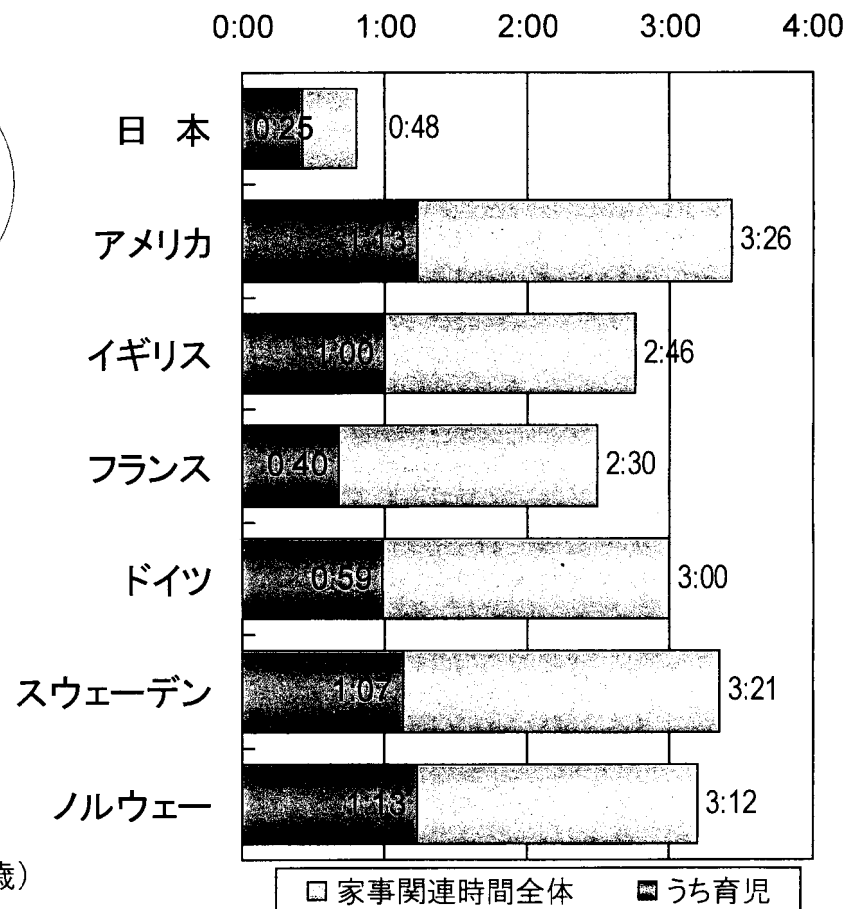
# ○子育て世代の長時間就業者割合の増加

## 男性雇用労働者の1週間の就業時間



資料:厚生労働省「平成17年労働経済の分析」(総務省統計局「労働力調査」を厚生労働省労働政策担当参事官室にて特別集計)

## 6歳未満児をもつ男性の家事・育児時間



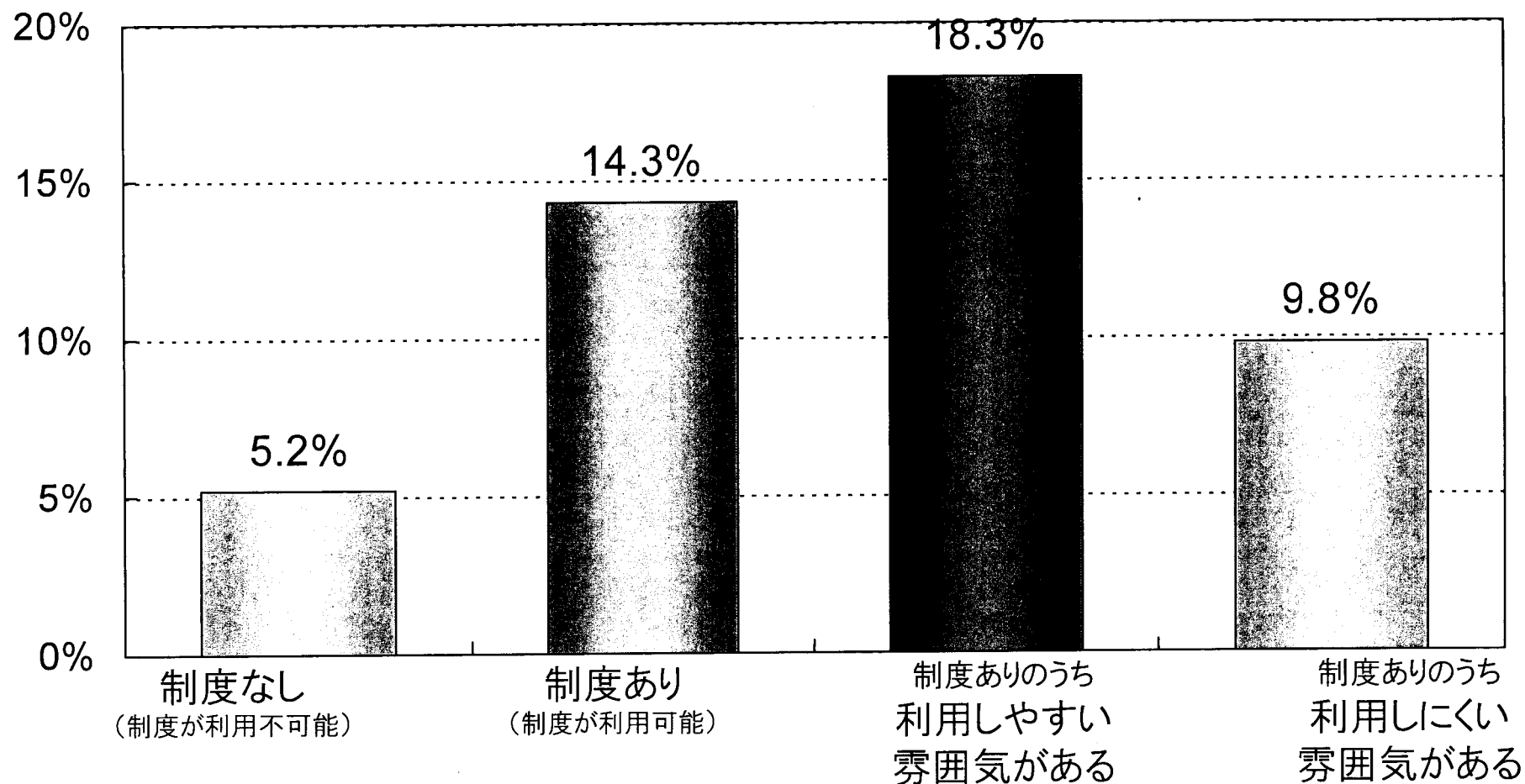
資料:Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use Survey Summary" (2004)、総務省「社会生活基本調査」(平成13年)



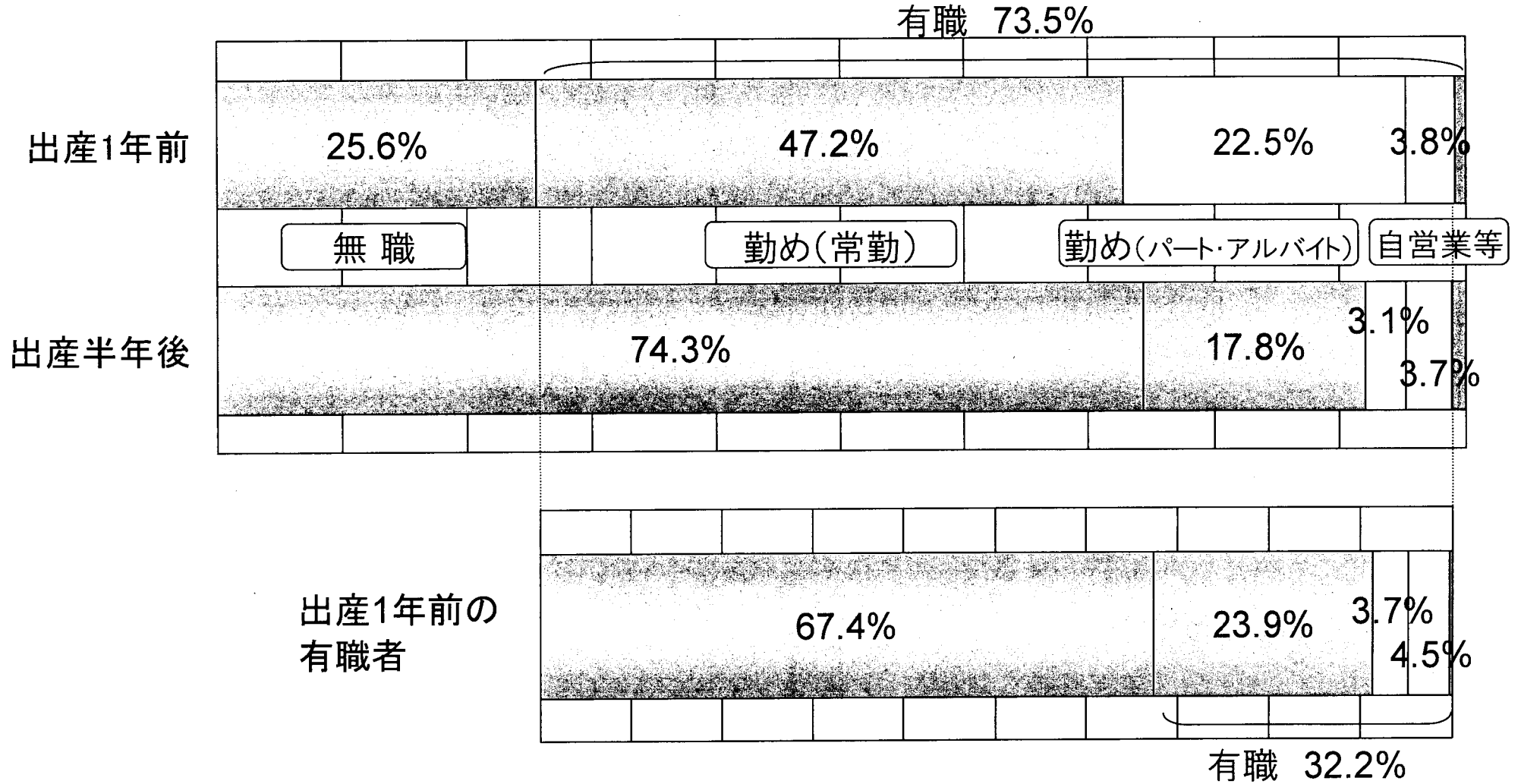
### 3 女性の仕事と育児の両立支援環境

#### ○育児休業の取得のしやすさと出生

【第1回調査(平成14年11月実施)から第2回調査(平成15年11月実施)の間に子どもが生まれておらず、第2回調査時点で妻が会社等に勤めていた夫婦のうち、この1年間で子どもが生まれた割合】



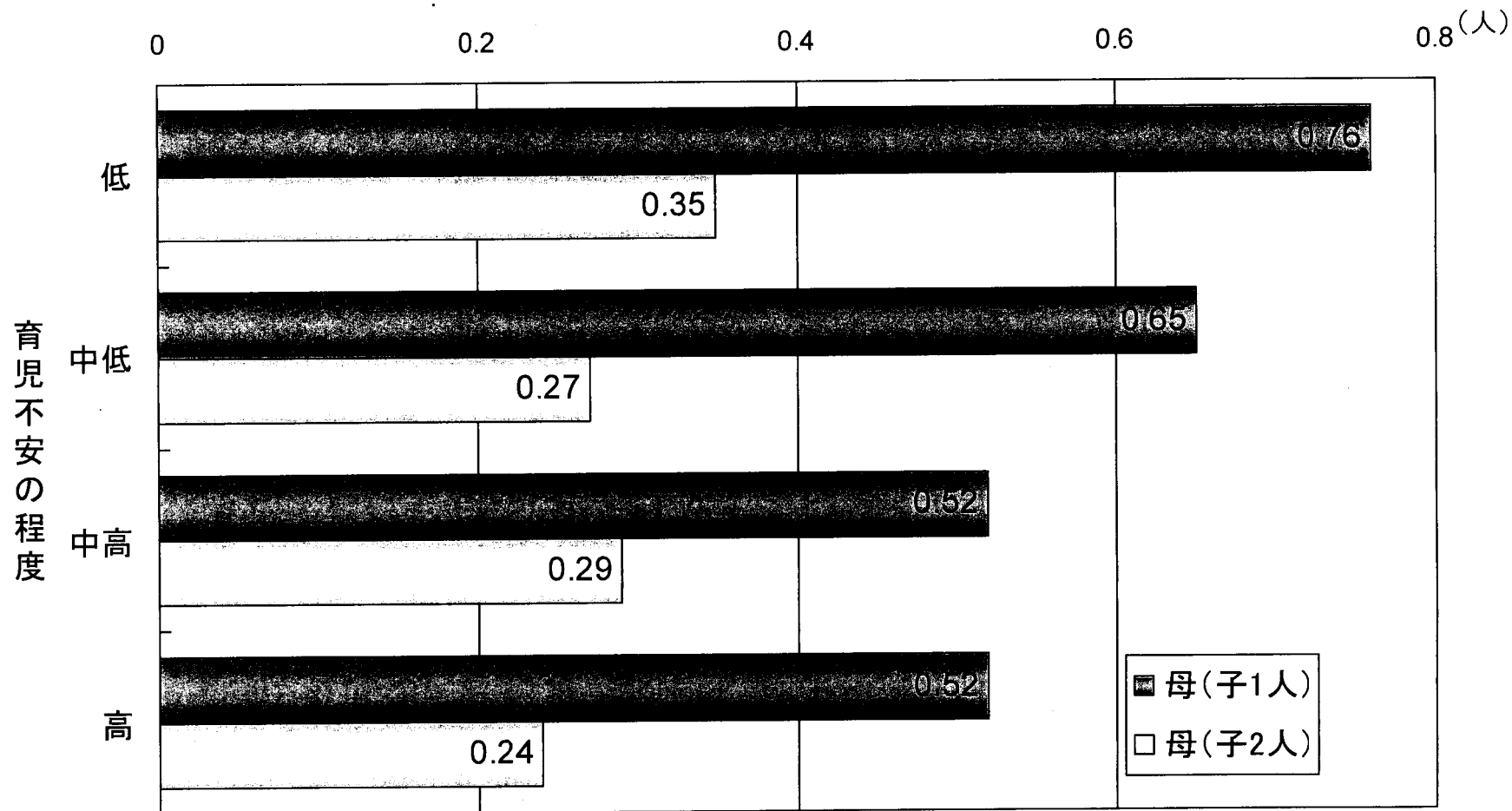
# ○第1子出産前後の女性の就業状況



(資料)厚生労働省「第1回21世紀出生児縦断調査結果」(平成14年)

## 4 育児に対する不安感、負担感

○母の育児不安別に見た追加出産意欲(追加で出産する予定の子ども数)



資料: (社)全国私立保育園連盟「乳幼児をかかえる保護者の子育ての現状 不安・悩み、出産意欲に関する調査」(平成18年3月)